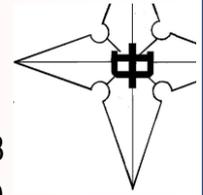


# 南浦和中だより



〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909

## 『飾りじゃないのよ涙は』

校長 おおこうちのりかず 大河内 範一



私は少々涙もろい。幼少の頃、アンデルセン童話の『人魚姫』を読んだ時、人魚姫が王子様の幸せのために自分が犠牲になり、海の泡となって消えてしまうラストシーンで、涙がはらはらと頬を伝った。また、毎年夏の終わりに何気なく観ている『24時間テレビ』でも、人々が協力しながら必死に何かに取り組んでいる場面になると、持っていた新聞で顔を隠し、家族に悟られぬように忍び泣いている。

自分自身の卒業式では小学校から大学までコンスタントに泣いてきたし、教師となって教え子たちが巣立っていく時も確実に涙を流してきた。その昔、娘の幼稚園の卒業式に至っては、スタートの園児入場の場面で、先頭の見知らぬ子どもが会場に足を一步踏み入れた瞬間に、涙がドッと溢れてきた。まさに「決壊」という言葉が相応しい、悲惨な状況になっている。

自分が校長になってからの卒業式でも、かなり早い段階から涙がこぼれ落ちてくるので困っている。花粉症のものとミックスされた鼻水も大量に流出してきて、校長式辞を読んでいる舞台上では、大変なことになっているのだが、あのマスクを付けていた時期は、全てを包み隠すことができたので、実は幸運だったのである。

とは言え、「泣く」ことは決して悪いことではない。精神科専門医の書物によると、泣くことでストレスホルモンが体外に排出され、デトックス効果で気持ちがスッキリしたと感ずることがあるとのこと。また、涙を流すことで自分の本当の気持ちに気付く、少しずつ自分を解放できるようになる人もいるとのこと。実は「泣く」ことは心身共にメリットが多いのである。

私の大好きなJ-POPの話になるが、80年代の名曲、斎藤由貴の『卒業』には、  
『ああ 卒業式で泣かないと 冷たい人と言われそう』

でも もっと哀しい瞬間に 涙はとっておきたいの』という歌詞がある。涙を流すと優しい人と思われるので嬉しい。また90年代の名曲、岡本真夜の『TOMORROW』では、  
『涙の数だけ強くなろうよ 風に揺れている花のように』

自分をそのまま信じていてね 明日は来るよどんな時も 明日は来るよ君のために』

と歌われている。涙は未来を感じて、やっぱり涙っていいものだなあと感じてしまう。

学校生活では、生徒たちが行事で躍動している姿を眺めるたびに、合唱の美しいハーモニーを聴くたびに、部活動の試合で勝利の笑顔を見るたびに、惜敗して無念の表情を見るたびに、心が震え、胸が熱くなってきた。中学校は感動で満ち溢れた場所なのだ。さて、もうすぐ卒業式。私はたぶん涙を堪え切れない。そんな予感がしている。

3年生諸君、私が泣いたら、一緒に泣いてね。